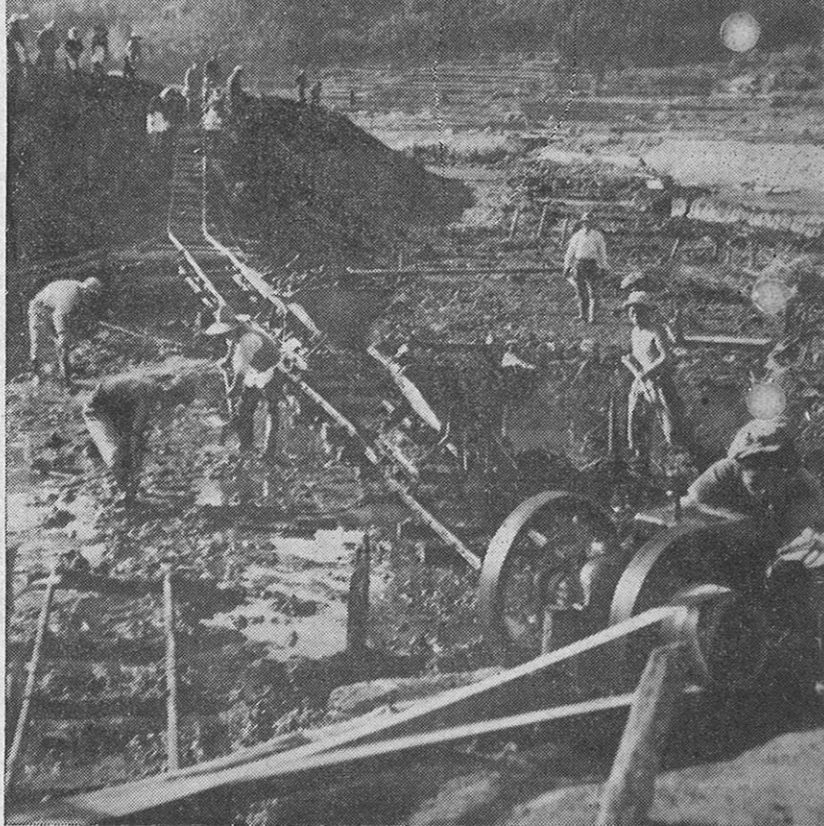




# 生 産の母船つくる

—国土建設週間によせて—



国土建設は日常の課題であります、とりわけ太平洋戦争の戦禍、そして六・二六、七・二六と打ちつづいた天災、この苛烈な試練を経た本県にとつて、それは一そう緊急切実な問題をはらんでいます。今年もまた国土建設週間を迎えて、今一度現実の姿を直視し、より大きな歩幅と、より早い速度をもつて、この課題の解決に進みたいと念願するものです。

## 七月の言葉

七月はギリギリと照りかがやく陽光の月。あらゆるものが生々とはつらつたる生命力に燃え、躍動の讃歌を合唱する。

濃く染め上げられた樹や草に塗りつぶされて、真青な空と、純白の雲をバツクに、目ざめるばかり鮮烈なスカイラインを描く夏山の起伏……

むせるような潮の香をのせて、はるかな沖合から押寄せてくる土用波が、遠浅の海岸へ近づくとつれて女性的なレースの皺となり、絶え間なく季節のトレモロをつくり返す砂浜の曲折……

山へ、海へ、夏は自然の魅惑を全身に孕んで、今私たちの前に素裸の肉体をさらしている。

ク自然に親しむ厚生運動は、すでに数年来のスローガンであり、若い人々の間にはレクリと鍛錬の両面から相当な成果を収めつゝある。しかし、そこには又いろいろな問題が派生していることも否めない。

開放された雰囲気での無軌道な風紀や犯罪、準備不足の無謀な計画による各種の事故、

そうしたものの解消はもちろん、そして何よりも望ましいことは、自然に親しむ機会をあらゆる人々のものにする、こと、いゝかえれば、一部の人々にのみ与えられる恩恵としないことの実現である。

山は招き海は呼ぶ、この月並な文句が、しかし生々と迫ってくる七月、健康な形で、私たちは彼等の饗宴に応じたい。

— 夏雲湧く天草灘 —



## 道路は産業の動脈

### 県の道路対策と現況

外国へ行つた人が例外なくいうことは日本の道路が悪いということ。つまりこれは日本全国の欠点ですが、本県の実情はどうでしょうか。そして県ではどんな対策をもっているのでしょうか。それにお答えするのが左の一文です。

#### 原因は

- ▼ 道路延長が非常に長い、維持補修に多くの経費を要し十分に手がまわらないこと。
- ▼ 道路を改良舗装するには一米当り二万円〜三万円もの大きな工費がいり、早急には計画が進められないこと。
- ▼ 県内の大部分の地域が阿蘇火山灰の影響で土質が悪く維持が困難である。近來自動車の交通量が急増し、更に加えて大型重量化したため路面の損傷が甚しい。
- ▼ こういった悪条件に対し県では昭和三十一年度迄一〇カ年間に道路の改良に金額は四三億五千万円もついでおりますが、なお、今後予算の増額と道路関係者の懸命の努力を必要とします。

対策は進められている……

とどこでこのような現況にある道路に

本県の道路網の構成を見ますと、大動脈にあたる幹線国道が熊本市を中心として放射状にひろがり、これを連絡して小動脈にあたる主要地方道(おもな県道)が大きな網をつくっています。そしてそれよりさらに県内の隅々に小血管にあたる一般地方道(一般県道)が小さく分れており、ま

こういつた道路の円滑な交通が書されますと、人間の動脈硬化のように、県の産業や文化の伸展に大きな影響を興えることはいままでありません。

とどこで道路の悪い